

双松会会報

第19号(「双松会」通巻24号「松高北高同窓会報」通巻24号)

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL②4888・②0655
印刷 有限会社 高浜印刷 TEL③9100



交流の輪をひろげる途を

会長 金 築 修



本年七月の双松会役員会の際に、松江中学校第五十九期の方がたの文集である「縁(えにし)」をいただいた。同じ松中六十一期卒業の私にとっては文中の随所に出てくる恩師、先輩、校舎、二本松、校歌のことから会員の戦争体験など多くのものが身近かで、私自身の思い出に繋がっており、読んでいて思わず涙がこぼれる程であった。そして、感傷を抜きにしてこの文章を読めば、これはまた母校や双松会の歴史に関わる貴重な史料である。松江中学校の昭和十年代前半の生きた姿がここにあり、母

歴史の重さ



今年の六月、ある研究大会参加のため岩手県盛岡市へ行きました。市内には石川啄木、宮沢賢治関係の史跡が多くありましたが、二人は明治十一年創立の旧制盛岡中学(現盛岡第一高校)の先輩、後輩になることを知りました。それに先立つ三月、私は東京大学の卒業式に出席し卒業証書を受ける総代の一人である北高出身生を祝福したりしましたが、蓮実重彦総長は式辞の中で「東京大学は明治十年の開学で伝統が誇りです」とおっしゃいました。明治十一年、明治十年の年号を開いた時は旧制松江中学創立が明治九年であることを思い浮べ、北高の歴史の重さを実感しました。

校長 杉原 隆

私は一歴史教師として北高に勤務していた昭和六十二年、北高の「研究紀要」に「地方新聞にみる明治後半期の対朝鮮観」なる拙論を書きました。マイクロフィルムに保存されている「山

以後東京に出て柔道を究めるべく講道館に学び、以来今日まで一貫して柔道の道を歩んでこられたその足跡を武道家らしく淡々と語られた。女子柔道は今日でこそ世界の檜舞台で華やかに注目される存在であるが、そこに至る道のりは極めて険しいものがあったのであり、その中で弛まず一筋に女子柔道の基盤を築き上げてこられた石橋六段の努力には全く頭の下る思いである。寡聞にして今日までこうした立派なお仕事をなさっていることを知らず、東京双松会で初めてそのことを知り認識を新たにしました。次第である。こうした会員の活躍ぶりをもっと会員に周知されてよいのではなからうか。

昨年この会報で私は会員の活躍の様子を伝える機会をもっと多くすることを述べた。ところが現状では双松会会報以外に適当な手段がない。しかも江第一中学生や卒業生にイギリス東洋艦隊乗組員の通訳と案内を呼び掛けたものですが、これまた歴史の重さや当時の旧制中学生の語学のレベルの高さが想像され敬服するばかりです。ごく最近私はいま一つ北高の歴史の重さを痛感したことがあります。それは大正四年(一九一五)から始まって今年八十回を迎える全国高校野球(第十九回)までは中等学校野球の呼称です。第一回から現在まで県予選、全国大会のどちらであろうと連続して参加し続けている学校は全国で十五校だけだそうですがその一校が北高です。この会報が発行された頃には今年の大高の歴史も伸ばしていきたくいもので「歴史をつくったのは歴史を信じなかつた人々である」という名言があります。その時その時を前向きに懸命に生きた旧制松江中学の大先輩から現在の北高在校生諸君の学園生活はいつのまにか昇華されてまぶしいような歴史となつて積み重ねられたいのです。生徒、教職員共々今後とも頑張つて参りますので先輩各位には引き続きご支援をお願い申し上げます。

事務局より

事務局(校内幹事)の転出入
平成十年四月の人事異動

- (転出)
 - 石田 百代 第11期 緑ヶ丘養護学校
 - 泉 雄二郎 第26期 隠岐島前高校
 - 奥名 正徳 第39期 松江立女子高
 - 田中 美貴 第41期 松江ろう学校
 - 高橋 賢樹 第42期 大阪道手門学院高校
- (転入)
 - 鹿島 浩二 第10期
 - 鶴石 和子 第14期
 - 渡邊 克彦 第23期
 - 北尾 哲也 第25期
 - 渡部 正人 第35期

双松会副会長

森本暉氏のご逝去

去る八月五日、双松会副会長の森本暉氏のご逝去されました。森本氏は新「双松会」が発足して以来現在まで、副会長として歴代会長を支えてこられました。また、同窓会が新「双松会」として一本化するまでは、松高北高同窓会の会長としてお世話をしていただきました。本当に長きにわたって双松会のために多大なる貢献をしてお祈りいたします。心よりご冥福をお祈りいたします。

松 籟

今春母校に赴任してボー
ト部の顧問を任せられた。勝手がわからず、初めは戸惑うことも多かったが、最近漸く慣れてきた。部員達との距離が縮まり、気持ちに余裕が出てきたのも大きく手伝つてのことだと思ふ。

先日、舟に乗って川面を走った時、近年絶えて味わったことのない心のざわめきを感じた。見るもの全てが別のものに見えてくると同時に、何かしら危うくて凝つてはいるけれども、そんな感じがしたのである。下から見上げる橋は、薄汚れている上に無骨であらぬ橋は、薄汚れている上に無骨である。行き交う人々も、全く無用心でどことなく間が抜けて見えた。私達が平素見ている視点は殆どの場合、地上二メートルから三メートルの間にある。そこから収集した視覚情報が日常の視覚世界を支配していると言つてよいだろう。とすれば、その視点を動かすことによつて、見馴れた日常の世界を変化させて見ることも可能だということにもなる。事実、私達は山やビルの屋上といった高い所に登つては、そこからの眺望を楽しんでいる。日常の世界を俯瞰することでも「日常の情性」に陥つている心を一時的にも解放しようとしているのではなからうか。日常の視点を変化させることによつて、見慣れた日常から脱出を試みる点では、山登りもボートに乗って身近な川面を走ることと同じであろう。しかし、水面から日常世界を仰ぎ見た時生じる心の変化は、その質に於て山登りのそれとは異なるのではないだろうか。もつと人間存在の根源的危うさを漠然と感じさせる行動のように思われてならない。川は常に私達の眼下を流れ、橋は決してその裏側を見ることがない。普段はない景物を私達は見ることになつてもよいかも知れぬ。物事の裏側を見る秘やかな楽しみがそこにはある。それに付随して良心の咎めのような痛み、何だかいたたまれない思い。遥か高みから見下ろす意気軒昂はないが、何かしら人生の危うさを感じさせてくれる川面からの世界の方が、今の私にはより好ましく感じられる。

平成9年度 双松会会計決算書

収入総額 4,977,313円
支出総額 4,276,344円
差引残高 700,969円

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算, 本年度決算, 増減(△), 備考. Includes sub-sections for 収入 and 支出.

平成10年度 双松会会計決算書

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算, 昨年度予算, 増減(△), 備考. Includes sub-sections for 収入 and 支出.

平成7年度発行「双松」会計8・9年度決算書

収入総額 8,355,381円
支出総額 3,954,934円
差引残高 4,400,447円

Table with 4 columns: 費目, 決算額, 説明, 明. Includes sub-sections for 収入 and 支出.

平成9年度決算

松江北高通信制課程同窓会

Table with 5 columns: 費目, 小分類, 予算額, 決算額, 摘要. Includes sub-sections for 1. 収入 and 2. 支出.

3. 744,150-365,446=378,704は次年度へ繰越
内訳(普通預金)258,704 (定期預金)120,000

Table with 4 columns: 特別会計(積立金), 前期分まで, H9年度分, 合計. Total 422,515.

平成10年度予算

Table with 5 columns: 費目, 小分類, 予算額. Includes sub-sections for 1. 収入 and 2. 支出.

3. 差し引きなし

平成10年度役員会報告

本年度役員会は、七十余名の出席者を得て、去る七月四日(土)に一文字ヤホテルで開かれ、金業会長を議長として次の議題について審議が行われ、原案通り承認された。

議題

- 一、平成九年度会務報告
一、平成九年度会計決算報告
名簿会計中間決算(八、九年度報告並びに監査報告
一、平成十年会務案審議
一、役員改選
常任幹事に井原泰、庄司肇両氏を選出する。

顧問 柴田 午郎(松中44期)
兼折 博(松中52期)
金業 修(松中61期)
井戸内 正(松中65期)
副会長 森本 隆志(松高1期)
会長 山本 隆志(松高6期)

単年度会計の赤字幅増大

以前から単年度会計は、五十万円から七十万円の赤字決算であった。この赤字額を5年毎に発行する名簿の売り上げの中から、三百万円(一年当たり六十万円)補填をして乗り切ってきたのである。

双松会会計の唯一の収入源は、全日制的生徒が毎月同窓会費として納める二百円と通信制の生徒が卒業時に納める千五百円であるが、ここ数年、全日制的生徒の減少(一クラスの定員が四人から四十人に減少)に伴い、総額で三百万円程に落ち込んでいる。

幹事長

杉原 隆(学校長)
副幹事長 田中征二郎(松高13期)
常任幹事 田中征二郎(松高13期)
目次 健一(松中66期)
井原 泰(松高3期)
松本 幹彦(松高11期)
庄司 肇(松高11期)
山口 栄一(松中67期)
古瀬 誠(松高16期)
監事 松浦 修六(北高教頭)

役員会報告

日時 7月11日(土) 13時
場所 パレステイマがたま(松江)
出席 役員20名 学校側4名
日程 会長あいさつ 藤原方也
学校現況報告 福田教頭

議事(1)平成9年度決算 同監査報告
(2)同会務報告
△昨年の全国定通体育大会 準備勝 男子バレーボール、ソフト

テニス男子団体、同個人(川西・庄見組)、男子陸上800m(仙田)

△地域同窓会
S54卒衛看科(代表松尾睦美)
S62卒(代表西村 繁)
△全国定通生徒生活体験発表大会
文部大臣賞 岩谷美那
△通信教育発足50周年記念・通信制同窓会総会
11月24日 ホテル栄道湖(松江)
卒業生100名、旧職員19名 現職

通信制より
いう案が提出された。

員8名の計127名で通信制が始まって以来の大盛況であった。

今夏の全国定通体育大会出場者は34名。今まで本校の中核であった日立生が2、3年生の25名となり、男子バレーボールに始めて一般生が出場する。これに対する補助を1人あたり1、500円(昨年同1、100円)。

ユニフォームの寄付。右のとおり出場する男子バレーボールユニフォーム代として10万円を寄付。財源は42万円ばかりの積立会計から支出する。懇親会 16時まで。

◎寄付頂いた方(平成10年7月まで)
後藤寛、内藤政江、向田多美子、守長恒夫、森山峯也、奥谷寿久
敬称略

最近「私は北高の卒業生です。今、同窓会でお子様の住所と電話番号を調べています」という電話が若い会員の保護者の皆様のお宅にかかっているようです。これは同窓会の名簿を使った偽成させるため、現在、大学生あるいは大学を卒業し就職されたばかりの会員の保護者宅に問い合わせるようです。双松会では五年に一度、名簿を発行しています。次は平成十二年の予定ですが、その際、住所を確認する手段としては返信用のハガキを用いた郵送方法で行いますし、送付先は事務局のある松江北高校宛です。

また、名簿販売会社から名簿購入の誘いのハガキが届いたことはありませんか。これらの会社は双松会とは関係のないものであり、販売代金も双松会から発行しているものの二倍以上です。ひどい場合は、代金を振り込んだけれども名簿を送ってこなかったという話も聞いています。くれぐれも注意して下さい。

なお、名簿を購入したいという方は松江北高校内の双松会事務局へ連絡していただければ、五千円で販売いたします。

平成10年度総合体育大会

新採点方式『男女総合優勝!!』

第36回鳥根県高等学校総合体育大会は、六月五日から六月八日(陸上競技は五月二十九日から五月三十一日)まで、県下各地の会場で、一斉に開催されました。

競技開催に先立ち、県高体連創立50周年記念総会開会式が、六月四日、松江市総合体育館において、盛大に挙行されました。

本年度から、大規模校(Aグループ)と小規模校(Bグループ)に分かれて、それぞれ優勝校を決定しました。

新採点方式の第一回となった今年度は、本校は見事、男女総合優勝に輝きました。その結果、インターハイ出場は、6種目に21人となりました。優勝の数は多くありませんが、どの部も最後の最後まで諦めることなく、地道に得点を稼いでくれました。その結果が、男女総合優勝となったわけですが、生徒諸君は「文武両道」をモットーに、日夜、真剣に取り組んでいます。今後も顧問と共に苦楽を共にしながら、精進を重ね、前人未到の四連覇に挑戦していきたいと思っております。必ずできると信じています。

以下主な成績をあげておきます。

Table of sports results including categories like 陸上競技, 男子, 女子, 男子個人, 女子個人, etc., listing schools and their rankings.

Table of sports results including categories like 棒高跳, 三段跳, 四〇〇M, etc., listing schools and their rankings.

Table of sports results including categories like シングルスカル, テニス, サッカー, etc., listing schools and their rankings.

Table of sports results including categories like 一五〇MF, 一〇〇MF, etc., listing schools and their rankings.

Table of sports results including categories like 男子個人, 女子個人, etc., listing schools and their rankings.

創部百年 野球部準決勝進出!

今夏の全国高校野球選手権鳥根大会において、今年創部百年を迎える本校野球部は順調に勝ち進み、48年ぶりに準決勝に進出した。準決勝では二時間余り雨のために試合が中断され、結果は三刀屋高校に惜しくも敗れはしたが、その全力を挙げてのプレーは応援する全校生徒に爽やかな感動を与えてくれた。

文化部の活躍

昨年から今年の夏休みにかけて、文化系の部活動も全国大会等で活躍、松江北高の名をとどろかせています。すべてを紹介し尽くすことはできませんので、以下全国で上位入賞したものを報告いたします。

- List of cultural activities and awards: H9 NHK全国学校音楽コンクール, H9全日本合唱コンクール, etc.

今春の進路状況

今春の進路状況について、報告いたします。大学入試は単なる点取り競争ではない。北高のすべての教育活動を通して自分の能力、適性を発見し、それを生かし伸ばす目標を確立し、その目標を達成する方法を模索しながら、学びの大切さと自分なりの生き方を確認していき、貴重な経験である。と指導してまいりました。文武両道をみごとに実践し、質実剛健の日々を過ごした今春の卒業生もまた、大きな成果をあげた。それぞれの新たな舞台へと旅立っていきました。

学園祭のご案内

今年の学園祭は第五十回の言わば記念すべき回となりました。統一テーマは「凌雲」。凌の音である。凌には、丘に上るという意味があるそうです。赤山に毎日上ってくる千二百名近い生徒の、雲をも凌ぐ高い志、若きエネルギーが結集した学園祭となると思いますので、是非、足を運んでみて下さい。

九月六日(日)・七日(月) 六日、七日は文化祭です。六日の講演には、東京大学文学部社会学科を卒業された同大学大学院へ進学された星加良司さんを招き、講演をしていただくことになっております。全盲であること

平成9年度学校種別合格状況(平成10年4月集計)

Table showing enrollment statistics for various school types (National, Public, Private) across different years (Heisei 8, 9, 10).

お尋ねします

「昭和十九年に旧制松江中学校に入学したが、学制改革・学区制施行など諸々の理由のため、松江中学校・松江高等学校を卒業しなかった松江中学四年修了者、中途転校者」

今まで発行した名簿「双松」には同じような立場の他年入学者についての記述がありながら、昭和十九年入学者の方にはこの項目がありませんでした。昭和十九年入学者にも、このような項目に該当する方がいるという指摘を受けましたので、ご存知の方がございましたら双松会事務局まで消息をご連絡下さい。

Contact information for the Double Pine Association: 松江市奥谷町一六四, 鳥根県立松江北高校, 双松会事務局宛, FAX 〇八五二二二一九七七

各期だより

松中五八期

卒業六十周年記念同窓会記

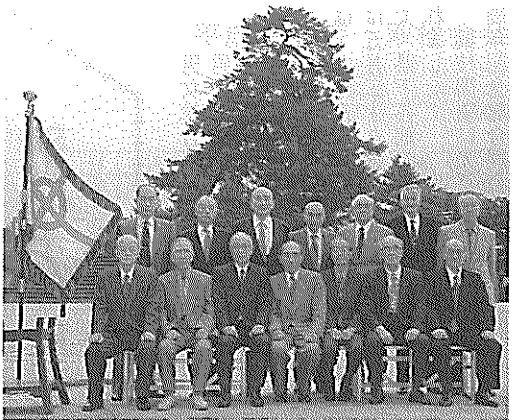
高松 茂

五八期に因んで五月八日、卒業六十周年記念同窓会を赤山の松江北高等学校において、卒業五十周年に続いて再び開催の運びとなりました。

当日はあいにくの曇り空で、雨も心配されたが幸い我等のために持ち耐えてくれて、各地から十六名の諸君が馳せ参じて久方の再会を喜びあいました。学校から杉原校長、松浦教頭、梅瀬の三先生には御多忙中を臨席して頂き有難うございました。

会場の会議室に卒業六十周年記念同窓会を大書した横書を貼り雰囲気づくりのもと、午後三時過ぎより開会しました。松崎会長の挨拶に続き記念寄付目録と共に金一封を寄贈し、母校に対する五十四名の会員の敬意を表しました。次に学校長の謝辞と挨拶のあと昨秋の叙勲者星野幸治君の勲四等旭日小綬章(永年の労働行政功績)と湯原節郎君の勲五等双光旭日章(地方労働行政事務功績)の二君の栄誉を喜び会長よりお祝金を贈呈しました。

セレモニーも終わり、学校側も退場された後議事に入ります。先づ各地区同窓会の活動報告が行われた。特に関東地区は二回も会合が持たれた。続いて会計報告の承認を受け、最後の議題は高齢



化に伴う今後の同窓会の在り方について、である。即ち従来通り全国一本で行うか、地区毎に小さく行うかでした。結論を得ぬまま、来年は関東地区で同窓会を行うことが決定して総会を終る。次いで校庭に出て記念写真を撮る。今回は残念ながら一本松の背景となつたが、残った東側の傾斜した松は今尚その偉容を保っているのがせめてもの慰めになった。

この後記念合同法要のため自動車で奥谷町の万寿寺へ向う。準備を整え待機して待たれた同窓の園山、佐々木岐岡導師のもと早速物故者百名の法要が営まれた。佐々木導師の一人一人呼名される毎に、今生きている我を思い、中学時代やその後の同窓会で共にした同友のそれぞれの思い出が胸をかすめるまま御冥福を祈った。終つてお茶を一杯頂いた後マイクパスで玉造温泉の「松の湯」の懇親会場へ向う。一同一風呂浴びてお膳につく。お互にやっ

と寛ぎ談話は夜の更け行くのを忘れる程はずみ楽しむ。二次会でカラオケもはずみ、まだまだ元気ありでした。明るく五月九日は好天に恵まれ希望者十名で近くの古代出雲発掘遺跡巡りと称して加茂町神原神社古墳(同町岩倉遺跡)斐川町荒神谷遺跡(自家用車に分乗して向う。魏の景初三年の銘入の銅鏡の出土した神原神社古墳は一体どなたの墓なのか、岩倉の三十九個の銅鐸は何故こんな所に埋めたのか、荒神谷に至つては三百五十八本の多量銅劍のほか銅矛、銅鐸などを同じような山の端に埋めたのはどうしてだろうか。この三ヶ所を関連づけて考えると強大な出雲族の存在が浮かんできて楽しい夢がふくらむのを覚えた。見学も終つて十二時過ぎ矢道町のドライブインで出雲そばの昼食で来年の関東地区での再会を楽しみに解散となった。

松中六十期(昭和十五年卒業)

同窓会報告

岡田 善富

平成九年九月五日松中六十期同窓会を、来賓に松江北高校杉原校長先生を

お招きし、五年振りに三十六名が集い、水明荘で開催した。世話人吉岡正吉君の司会で、故人になつた同期八十八人のご冥福を祈り、世話人を代表して岡田善富が挨拶した後、杉原校長先生から北高の近況についてお話をいただいた。



現在の北高では名門校を継承され、熱意をもって教育に専念されている様子や、毎年素晴らしい成果を挙げられ人材を排出されているのを聞き、半世紀前の赤山を偲び一同感銘深く拝聴した。

鹿児島市からははるばる参加してくれた川井修治君の乾杯で懇親会が始まり順次近況報告をしてもらったが、白髪禿頭の七十五歳以上の年輪を重ねているにもかかわらず少年時代の面影が残っているのには驚いた。

まだ第一線の政財界で活躍中の引退後蓄積した経験技術を別の形で活かしている人、悠々晴耕雨読の諸氏等様々であるが、在校時代の話に花が咲き懇話会は佳境に入つていった。

最後は「赤山健児の歌」を大声で斉唱して来たべき六十周年記念同窓会には元気で再会を約し散会した。

九期の皆様

玉造温泉でお逢いしましょう

松高九期同窓会

会長 小林 忠夫

松高九期(昭和三十三年卒業)同窓生の皆様におかれましては、それぞれの道でご活躍のことと存じます。

さて、かねてより検討しておりました卒業四十周年記念同窓会と還暦を祝う会を一緒に開催する件で、各クラス二名、計二十四名の世話人の方々の出席のもとに、去る六月二十八日(日)「なにわ一水」で、色々ご相談した結果決まりました点を報告させて頂きま

す。この度の四十周年の同窓会は、正月、盆、連休は避けて、平成十一年五月二十三日(日)午後四時集合で、玉造温泉で宿泊付きとする。尚、宿泊と会場となる所は、参加者人数と収容人数の都合もあるので、後に検討会を設けて決定することになりました。

たぶん来年一月末までには正式な案内状を送付させて頂くと思っておりますので、取りあえず「日時」は予定に入れておいて下さい。

「安心下さい。二百名位までなら、何とかあります。お任せ下さい」 「そうですか」 卒業して三十年という節目を迎える第十八期である。この同窓会総会には多数の同窓生に出席して欲しいと願ひ、クラス幹事を改選した。この新しい幹事たちが一心となり、卒業時のクラス単位で電話で出席して欲しいと呼びかけた。この努力が効果を奏したようだ。平成九年八月十四日の夕刻、会場の松江ワシントンホテルの一階ロビーは第十八期同窓生で溢れかえっていた。 「やあ、〇〇君じゃないか」 「……あつ、△△君か」 「元気だったかい」 「ええ。そつちこそ」 旧友との再会を喜ぶ光景が見られ、歓談の輪が生まれていた。 「そろそろ、会場に上がつてよ」 幹事たちの声が耳に入らないのか、昔話に夢中になるグループもあった。開会の時刻になった。会場の中には連絡のついた同窓生たちの三分の一に当たる百七十二人が集つた。 演劇部で活躍していた和田(恩田)史郎君の司会で記念式典が始まる。 まず△会長の石飛裕君が挨拶を行う。 ご招待した恩師である野津和子先生、今岡稔先生、木戸幹夫先生からお一人づつ、お言葉を頂いた。 続いて、出席できない同窓生たちが返信ハガキに書いていたメッセージを副会長の小山(大木)量代さんが紹介する。

お蔭さまで三十年

北高第十八期同窓会

事務局長 奥原 啓三

旅先から帰つたら、テーブルの上に戻信ハガキが厚く重ねられていた。すでに締切日が来てしまつていた。返事は三通通を越えてしまつていた。 通常の同窓会なら欠席の回答が多い。だが、今回は出席の返事が圧倒的だ。出席者数を確認すると、予約している会場に駆け込んだ。

担当者に面会を求め、 「予想していた数を優に越えてしまふそうです。このままだと、百五十人を越えそうです。大丈夫でしょうか」

「安心下さい。二百名位までなら、何とかあります。お任せ下さい」 「そうですか」 卒業して三十年という節目を迎える第十八期である。この同窓会総会には多数の同窓生に出席して欲しいと願ひ、クラス幹事を改選した。この新しい幹事たちが一心となり、卒業時のクラス単位で電話で出席して欲しいと呼びかけた。この努力が効果を奏したようだ。平成九年八月十四日の夕刻、会場の松江ワシントンホテルの一階ロビーは第十八期同窓生で溢れかえっていた。 「やあ、〇〇君じゃないか」 「……あつ、△△君か」 「元気だったかい」 「ええ。そつちこそ」 旧友との再会を喜ぶ光景が見られ、歓談の輪が生まれていた。 「そろそろ、会場に上がつてよ」 幹事たちの声が耳に入らないのか、昔話に夢中になるグループもあった。開会の時刻になった。会場の中には連絡のついた同窓生たちの三分の一に当たる百七十二人が集つた。 演劇部で活躍していた和田(恩田)史郎君の司会で記念式典が始まる。 まず△会長の石飛裕君が挨拶を行う。 ご招待した恩師である野津和子先生、今岡稔先生、木戸幹夫先生からお一人づつ、お言葉を頂いた。 続いて、出席できない同窓生たちが返信ハガキに書いていたメッセージを副会長の小山(大木)量代さんが紹介する。

終わった時、出席者の数が多いためにこのスタイルでは収まらないクラスがあった。会場の正面にある金の屏風を背にして写すことになった。写真撮影する同窓生を見ながら盃を重ねあい、会場内は騒然としている。 ゆっくり話をするなど無理である。 やがて、音楽家になった大岩篤郎君の指揮の下、出席した誰もが肩を組み、目頭を熱くしながら校歌を大合唱した。

最後は、重大な交通事故から見事に社会復帰を果たした足立雅君の発声で盛大に一本じめを行う。 こうして、総会は閉会となった。 ホテルの玄関ドアを開ける。そこは同窓会の会場そのものだ。先程までの喧騒は止むことを知らなかった。 予め設置していた二次会の場所には徒歩で一分とはかからない。それでも案内係の幹事は大声で催促しなくてはならなかった。 漸く催促に応じ、路上で溢れていた同窓生たちは二次会の宴席を目指し、雪崩込んで行つた。

編集後記

母校に赴任してきて四年目、双松会の校内幹事として初めて仕事らしい仕事をさせていただきました。執筆を依頼した方々には、ご多忙の中、快く原稿をお寄せいただきました。本当にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

この双松会会報も、予算面の問題も出ておりますが、内容的にも更に充実したものにできればと思います。会員の皆様にもぜひ、高校時代の思い出や近況報告、様々な分野で活躍している方々の紹介等々、お寄せいただければと存じます。この会報が、双松会の親睦と発展に少しでも役立つことを祈念いたします。

